



## 講義「バーコードの数理」

マス・フォア・インダストリ研究所  
数学理論先進ソフトウェア開発室  
教授 溝口佳寛 先生



バーコードの数字は今まで全然気にしたことなかったけど、ある手順に従ったら、必ず一の位の数が0になるということが分かっておもしろかったです。この仕組みがあることによって、商品の正しい値段を表示して誤りを防ぐということが分かりました。途中難しいところもいくつかあったけど、バーコードの数字は、一カ所が不明であっても修正して読み込めるということが分かりました。今まで数学は生活の中で買い物やときの計算や確率を求めたいときぐらいしか使うことがなかったので、このような形で私たちの生活に役立っているということを知れてよかったです。

深町 萌愛(古賀北中出身)

災害から被害者を減らすという目的の達成のためにVRで疑似体験をしてみたい、自身にも訪れるかもしれないという感覚を持たせることで、警報を聞いてすぐに逃げられる人を増やそうという試みで研究を進めていることが分かりました。研究者は私たちの生活を豊かに、安心安全な営みができるように日々研究をしていると分かりました。僕も研究室で研究ができるように必要な知識を蓄えようと思います。

前田 陸(松崎中出身)

## 九州大学 工学部の紹介①

工学研究院  
附属環境工学研究教育センター  
准教授 中山裕文 先生



今回、1番興味を持ったのは、工学部地球環境工学科です。私も化学部での研究で、糊殻を用いて油脂吸着分解をし、水をきれいにするという環境に対する取り組みをされており、親近感が湧き、惹かれました。講義を受け、SDGsやEPRなど自分の知らない単語を多く聞き、まだまだ勉強が必要だと思いました。

原口 紗綾(箱崎中出身)

## 九州大学 工学部の紹介②

工学研究院  
地球環境工学科建築都市コース  
准教授 浅井光輝 先生



VRやARといった先端技術が災害での被害を抑えられることに関心を思った。学校でも避難訓練を行うが、実際に現場の状況にするのは難しい。しかしVRやARを使うことであたかも災害が起こったかのように感じることができる。今後発生が予想される大規模災害で、被害を最小限に抑えるためにこれらの技術は必要不可欠であると思う。そのためには、より安価で一般の人々も手にすることが簡単になるようにし、普及させる必要があると思う。自分の目指す道とは少し異なるが、災害の被害を抑えたいという目的は同じだから、これらの研修での体験を生かして自分の進路を実現したい。

樋口 稜将(河東中出身)

今回の研修を通して、分からなかった、知らなかった部分が、少しではあるが、分かった気がする。自分はどんなAIを作りたいのか、自分は大学でAIについて勉強しているときにすぐに飽きたりしないだろうか、AIに関わる仕事といってもどんな仕事があるのだろうかなど様々な疑問がたくさん私の中にあっただ。そして、今回の研修、バーコードの原理について、ドローン、VR・ARについての話を聞くうちにAIに通じるものがたくさんあり、自分の中にあっただ疑問は少しずつなくなるとともに、新たな疑問も出てきた。その新たな疑問は今回の研修を受けてなかったら、生まれなかったと思ったので、今回の研修はとても良いものだった。

一瀬 椋太(志免中出身)

## 九州大学 工学部の紹介③

工学研究院 機械工学科  
材料加工工学研究室  
准教授 津守不二夫 先生



最後の機会工学科の研究室の見学では、近代化の一步となったシンプルな旋盤などの機械から、きわめて高価な最先端の機械まで、さまざまな機会に触れることができ、技術の進歩を感じられた。今回の研修ではやはり九州の中でも随一の大学であるため、貴重な体験を数多くすることができた。学んだことを今後の進路選択で参考にしていきたい。

藤井 和己(古賀北中出身)

SSHの科学研修で、研究者の方の考え方は私とは全く違うと思った。自分が「これが普通だ」と思って気にしていないところも、研究者の方は「なんでそうなるのか」と追及して考えていてすごいと思った。

土橋 彩香(宇美東中出身)